

平成 2 6 年 1 0 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

高水山の常福院

高水山の山頂に近くには、「高水山龍學寺」と号する真言宗の寺院があり、一般には常福院として知られている。青梅市教育委員会が刊行した『皇国地誌・上成木村上分村誌』によると、寺域は 375 坪の面積である。山火事の発生で建物と共に古文書も焼失したため、開山などについては不詳であるが、畠山重忠の伝説を持ち、寛永元（1624）年に示寂した賢覺和尚を中興開祖としている。

青梅線の軍畑駅から、徒歩で 1 時間 30 分前後の距離であるため、多くのハイカーが訪れている。多くのハイカーは軍畑（平溝）からのコースが表参道と思っているようだが、山頂付近は成木七丁目の範囲で、北側の上成木（大平）からのコースが表参道である。大平から出発し、一合目・二合目と道標を数えながら足を進めると、約 1 時間で常福院に着く。山道から 15 段の石段を登ると山門で、潜った右手に「十合目」の道標が立っている。

境内には東向きの本堂、山門を入った正面には不動堂、不動堂の背後には地藏堂、その左手には鐘楼堂などが建てられている。

不動堂は間口 3 間、奥行き 3 間の建物で、文政 5（1822）年の再建である。正面には、「一呪閣^{いちげいかく}」と書かれた大きな木額が掲げられ、本尊の波切不動明王像が安置されている。筆は小峰峯真で、峯真の額としては市内最大である。周囲の軒下には、大小の扁額が数多く掲げられ、古くから信仰が厚いことが分かる。太平洋大戦時には、海軍に徴兵された家族が、兵士の安全や武運長久を願って参拝したと云う。

地藏堂の室内にはいくつかの石仏が安置され、その中に仁王像の頭部がある。これは、不動堂と共に仁王門も焼けた際、仁王門に安置されていた石像の一部である。仁王像は木造が多く、石像の仁王像は、多摩地方では珍しい。なお、その時の焼灰は集められ、灰塚が築かれたと云う。

鐘楼堂内の吊鐘は、直径約 68.5cm、高さ約 99cm の大きさである。「享保三戊戌年八月二十八日」とあることから、上成木村の人々が西暦 1718 年に寄進したことが分かる。

毎年、4 月 8 日に近い日曜日、上成木地区の高水山獅子舞保存会によって、境内で奉納されている。明和 5（1768）年頃、奥多摩町大丹波から伝わった角太夫流である。昭和 42（1967）年 11 月 3 日に市無形文化財に指定された頃は、役者（獅子）20 人、ササラ 10 人、露払い 2 人、笛吹 15 人、歌い手 5 人であった。演目・曲目は御幣懸、花懸、

竿懸、三拍子、女獅子隠、太刀懸であった。衣装・用具は獅子頭（三匹）、獅子衣装、太鼓、バチ、ササラ、娘の衣装、花笠、笛、太刀であった。なお、保存会には、『日本獅子舞秘伝巻物』と『獅子舞歌本』（2冊）が残されている。

境域内には数本の巨木が植栽されている。

- (イ) 大スギ・樹高 50～51m。胸高幹囲約 4.05m。
- (ロ) 大スギ・樹高 49m。胸高幹囲約 3.63m。
- (ハ) 大スギ・樹高 42.3m。胸高幹囲約 5.7m。
- (ニ) 大スギ・胸高幹囲約 3 m弱。
- (ホ) 大スギ・胸高幹囲約 3 m弱。
- (ヘ) 大スギ・本堂の裏手右側にあり、樹高約 34.5m、胸高幹囲約 6.25mである。「畠山重忠駒繋ぎのスギ」と称されている。
- (ト) ホンブナ・上記の大スギの左側にあり、樹高約 22m、胸高幹囲約 3.15m。
- (チ) 大スギ・樹高 42.3m。胸高幹囲約 5.7m。
- (リ) ヒノキ・胸高幹囲約 2.42m。
- (ヌ) ヒノキ・胸高幹囲約 2.7m。

この他、かつて近くの山中には、根囲が 6.5mもあるカエデが植栽されていた。東京都の天然記念物に指定されていたが、昭和 41（1966）年 9 月の台風 26 号で倒されてしまった。残った幹材を輪切りにし、加工して造った火鉢が常福院に残されている。

（文責 角田 清美）



第1図 高水山山頂付近の地形